人気作品にまつわるエピソードや冒険談を披露

松本零士氏が市内で講演会

卒業生で国際宇宙ステーションに長期滞在中の宇宙飛行士・金井宣茂さんを応援しようという企画の一つ。松本氏は「銀河鉄道999」「宇宙戦艦ヤマト」など宇宙を舞台にした人気作品を数多く描き、(公財)日本宇宙少年団理事長として、未来を担う青少年に夢や情熱を伝えている。

当日は公募に応募した親子連れや作品ファンなど多くの人が集まり、金井さんや宇宙飛行士の活動などの紹介展示パネルやスライド上映で、宇宙への関心を高めていた。

展示パネルに見入る来場者

講演で松本氏は、漫画家になるまでのいきさつや、作品に登場するキャラクターの名前の由来、数々の冒険談などを披露。アマゾン川の源流を泳いでピラニアやワニを食べた話や、アフリカでライオンと決闘しようとした話、厳流島まで泳いでいこうとした話など破天荒な体験談が次から次へと飛び出し、会場を沸かせた。「私はそういうことが自由にできた最後の世代。それらの体験や、個性を左右する先祖代々からの遺伝子が自分の創作を後押ししてくれる。子どもたちにもいろいろな体験をさせるべき」と語った。松本氏は2日前に80歳になったばかり。「『零士』の零はゼロ。終わり無き水道の侍の意味。まだまだがんばって新しい作品を描いていきます」と結んだ。

講演後、父と子で参加していた広尾在住の親子は、「松本先生の作品のファン。先生のさまざま体験談が聞けてよかった」(父)、「先生の作品は親の世代が全盛期。世代は違うが、僕も好き。今日話を聞けてよかった」(息子)と、共通の趣味で楽しそうな様子。会場で目立っていたのは、JAXAのブルーの制服を着て参加していた日本宇宙少年団市川COSMOS分団のメンバーたち。その谷口耕生君(中1)は、「宇宙は遠く感じていたが、今日の講演で距離を近くに感じた」、島崎大輝君(小2)は「宇宙が好きで参加しましたが、もっと好きになりました」と話してくれた。

日本宇宙少年団の樺木琉偉君(真間小6年)が花束を贈呈